

■ 介護ロボの相談窓口・開発拠点が8月から運営開始、開発や普及促進 厚労省

厚生労働省は29日、介護ロボット開発や普及を促進するための相談窓口や開発拠点を全国各地に設置し、8月3日から運営を開始すると発表した。全国11カ所に配置する相談窓口では介護ロボットの展示や試用貸し出しに加え、介護事業所や企業からの介護ロボットに関する相談に応じる。開発拠点の「リビングラボ」は、全国6カ所の拠点でネットワークを形成。介護ロボット開発に向けた支援や、複数の介護ロボットを組み合わせで有効活用するためのパッケージモデルを開発するための実証研究などを行う。

相談窓口は、北海道、青森、岩手、埼玉、神奈川、富山、愛知、兵庫、広島、徳島、福岡の全国11カ所に設置する。リビングラボは、国立長寿医療研究センター、善光会サンタフェ総合研究所、藤田医科大ロボティクススマートホーム、九州工業大スマートライフケア共創工房、産業技術総合研究所リビングラボ、SOMPOホールディングス「Future Care Lab in Japan」の6カ所を指定。ラボの特性ごとにさまざまな課題に対応し、開発途上の介護ロボットの効果検証などを行う。

リビングラボでの検証を通じて効果を確認できた介護ロボットについては、大規模実証として複数の介護事業所にまたがる効果検証も想定しており、現場の意向も反映して利用しやすい介護ロボットの普及につなげていく。

WEB 限定の機能やコンテンツが充実！ 2週間無料トライアルのお申込みはQRコードから ➡

MEDIFAXweb <https://mf.jiho.jp/>

